

深イ〜話!

No.24

—「小さな人生論」(藤尾秀昭著)より—

<人生を幸福に生きる>

新聞の読者欄にこんな投書が載っていた。

「自分の両親は朝から晩まで一所懸命に働いたが、暮らしは貧窮のどん底だった。自分は子どもの頃、両親がこんなに働いても貧しいのは、きっと、世の中、つまり社会の仕組みが悪いからだ、と思っていた。

やがて、自分は親元をはなれ、結婚して家庭を持ち、子どもも生まれた。自分は毎年、両親へのお歳暮とお中元を欠かさなかった。しかし、口頭でも手紙でも、両親から一度もお礼の返事をもらったことがない。

いま、自分は思う。

両親があんなに働いても貧乏から逃れられなかったのは、決して世の中が悪いのではなく、両親が人間的に未成熟だったからだ。」

この投書が語るものは大きい。おそらくここには、人生を幸福に生きるための最も原初的な秘訣が語られている。

こういう言葉もある。

「苦しみに遭って、自暴自棄に陥ったとき、人間は必ず内面的に墮落する。同時に、その苦しみに耐えてこれを打ち超えたとき、その苦しみは必ずその人を大成せしめる」(ペスタロッチ)

人生を、人間を知り尽くした人の言葉である。

幸不幸の状況は、その人の受け止め方ですべて違う現実をつくり出していく。

幸福とは何か。幸福に生きる術とは何か。この二つの話はそのことを示唆してくれているように思う。